

陳 情	受 理 番 号	71	受 理 年 月 日	令和8年8月14日	付 託 委員会	教育福祉
件 名	排泄に課題を抱える障害者の日常生活用具へ排泄予測支援機器の追加認定についての陳情					

みだしの件について、別紙のとおり陳情いたしますので、よろしくお願いいたします。

排泄に課題を抱える障害者の日常生活用具へ 排泄予測支援機器の追加認定についての陳情

1 陳情の要旨

那覇市内に居住する排泄に課題を抱える障害児・障害者およびそのご家族が、日々の排泄にまつわる不安から解放され、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、那覇市において、排泄予測支援機器「DFree」を日常生活用具として追加認定いただきたい。

※「DFree」は令和4年4月に特定福祉用具認定され、介護保険適用である

2 陳情の理由

1 令和6年3月の障害者保健福祉関係主管課長会議資料「日常生活用具給付等事業の適正な実施について」には、「日常生活用具給付等事業については、その事業費が年々増加傾向にあり、今後も安定した事業運営を行うためには各市町村において効果的・効率的な事業実施が図られる必要がある。また、当該団体者等からは、一部の市町村においては、長期間にわたり種目や基準額等の見直しが行われていない状況にあるとの声も寄せられているところである。このため、各市町村においては定期的に当事者の意見を聴取によるニーズ把握や実勢価格の調査等、地域の実情に即した適切な種目や基準額となるよう定期的な見直しに努められたい」と記載がある

2 那覇市は、沖縄県の県庁所在地であり、県内唯一の中核市として、保健・福祉の分野で広範な権限を担う立場にある。排泄に関する困難は、本人の身体的・精神的な負担にとどまらず、家族による日々のトイレ誘導やオムツ交換の負担、外出・通学・通所への影響など、当事者とその家族の生活全般に波及する切実な課題であ

りながら、その性質上、周囲に打ち明けにくく、支援の必要性が表面化しにくい領域でもある。「DFree」は、超音波センサーにより膀胱内の尿量を客観的な数値として可視化し、排泄のタイミングを本人や介助者に通知することで、こうした負担を本質的に軽減する機器である。日常生活用具の給付品目への追加認定は、東京都港区、板橋区、品川区にとどまらず、岡山市や山口県下関市など各地に広がっているが、日常生活用具給付等事業は市町村の判断で給付品目を定める制度であるため、居住する自治体によって受けられる支援に差が生じている。県内において先例のない現状では、那覇市の判断が県内他市町村の施策に与える影響は大きく、本市が認定に踏み出すことは、市内の当事者とその家族を支えるにとどまらず、県全体の福祉水準の向上を牽引する一歩となる。市民の声を受け止め、時代の変化に即した政策を進める那覇市においてこそ、本機器の早急な追加認定が強く望まれる。

3 排泄予測支援機器「DFree」は超音波センサーにより膀胱を経時的にモニタリングし、膀胱内の尿の溜まり具合を0~10で数値化が行われる。その数値は専用タブレットやスマートフォンで確認でき、排尿のタイミングを予測し排尿機会を本人または介助者に通知することが可能。「DFree」を装着し、通知のタイミングで声かけを行うことで、感覚や時間でトイレ誘導をするのではなく、膀胱に尿が溜まったタイミングで声かけを行える。完全にトイレで排泄できる段階までは成功していないが、中長期的に活用することで、本人が通知を元に（尿意を感じて）トイレへの訴えができるようになるのではと期待をしている。このように「DFree」は適切なタイミングで尿意を感じることができない障害者にとって非常に有用である。排泄に悩みを抱える障害者が負担少なく購入できるよう、排泄予測支援機器「DFree」を日常生活用具として追加認定いただきたい。